

ジャパニーズ アート プログラム 2016 の実施報告書
(Japanese Art Program 2016)

ジャパニーズ アート プログラム 2016 記録作成 重政啓治

派遣者	重政啓治
派遣期間	2016年10月30日から11月20日まで
移動	KLM (出国：成田→スキポールKL0862便、 帰国：スキポール→成田KL0861便)
航空チケット手配	JAPA
活動内容	ライデン大学在学学生対象授業、および 一般市民対象公開講座
授業内容	「日本画を描く」 (詳細は、報告書参照)
公開講座内容	「日本画制作を見る」 (詳細は、報告書参照)
滞在期間宿泊施設	ゲストハウス
授業運営経費	授業実施用具(日本から持参・報告書参考資料参照)
授業計画案の作成	3ヶ月前 (報告書参考資料参照)
用具購入	得応軒等 (報告書参考資料参照)
手荷物	スーツケース1個 (私物、授業用具) + 段ボール箱1個 (授業用具・現地廃棄)

備考：参考として、

本派遣実施にあたっての在庫備品あり。筆洗 (直径約 12cm 巾×深さ 10cm、20 個)、プラスチック製皿 (直径約 10cm 巾×深さ 3cm、40 個)、ビニールシート (約 60×40cm、20 部)、習字用毛氈 (約 B4、5 部) 色紙 (10 部) 固形墨 (5 部) 彩色筆 7 号 (5 本)、以上各備品数については、正確ではない。

その他、バケツ (直径約 25cm×高さ 30cm、3 個)

今回大学側が購入した備品として、電気湯沸器 1 器、

目次

ジャパニーズ アート プログラム 2016 の実施報告書) . . .	1
添付資料 1 (授業状況写真)	3
添付資料 2 (授業計画案)	11
添付資料 3 (物品一覧表)	12
公開講座状況報告書	13

ジャパニーズ アート プログラム 2016 の実施報告書
(Japanese Art Program 2016)

ライデン大学学生対象授業 (5 回開講)

1. イントロダクション「日本画について」

[時間場所]

11 月 3 日 15:00~17:00、リプシウス館 4F 教室

[内容]

始めに日本画の紹介として、琳派から現在の作品、また、それらに見られる型の美術、異時同図などから絵画処理法の解説ののち、絵具の原料、種類、膠など大まかな日本画制作に用いる用具の紹介を行う。それと授業進行では、どのような体験と今回の最終的成果物としてどのようなものを制作するかパワーポイントを用いて説明。

[出席学生]

13 名

[準備]

講師；説明用パワーポイント

[3 頁 添付資料 1 参照]

2. 「日本画の筆を使う」

[時間場所]

11 月 8 日 15:00~17:30、アルヒナール 2F 教室

[内容]

本授業での説明後、墨を使って、落ち葉や花、野菜などをモチーフに、毛筆がもたらす様々な線や面を描き体験する目的として練習用色紙に描いてみる。また、次回の授業のため、日本画絵具溶き体験としての胡粉溶きとその他絵具の溶き方を行う。

[出席学生]

11 名

[準備]

講師；授業使用用具の準備（彩色筆、固形墨、皿、絵具、色紙など）、膠液、学生；モチーフとしての庭にある草花や落ち葉など。

大学；筆洗、タオルまたは雑巾、新聞紙、バケツ、電気ポット、水

[備考]使用用具は、各自保管

[6 頁 添付資料 1 参照]

3. 「日本画の絵具：描く」

[時間場所]

11 月 10 日 15:00~17:30、リプシウス館 4F 教室

[内容]

前回描いた色紙に日本画絵具を扱う、塗る体験後、別の用紙に、本制作としての制作に入る。本制作した用紙を、最終的には支持体としての竹製の団扇に貼るま

で完成目標としているので、進行説明とともに描くモチーフの説明もする。

[出席学生]

9名

[準備]

講師；膠液、溶いた胡粉、団扇用和紙、型紙

学生；使用用具としての、絵具皿、筆など

大学；筆洗、タオルまたは雑巾、新聞紙、バケツ、電気ポット、水

[6頁 添付資料1 参照]

4. 「日本画制作1」

[時間場所]

11月15日 15:00～17:30、アルヒナール 2F 教室

[内容]

前回から取り組んでいる団扇用の作品制作の続きを行う。

[出席学生]

9名

[準備]

講師；膠液、溶いた胡粉、団扇用和紙、型紙

学生；使用用具としての、絵具皿、筆など

大学；筆洗、タオルまたは雑巾、新聞紙、バケツ、電気ポット、水

[7頁 添付資料1 参照]

5. 「日本画制作2」

[時間場所]

11月17日 15:00～16:30、リプシウス館 4F 教室

[内容]

団扇に貼り方実演と説明後、各自作品を支持体とする団扇に作品を貼る。その後完成した作品の感想と簡単な講評を行う。

[出席学生]

6名

[準備]

講師；裏打ち用道具、糊、ボール、はさみ、型紙

学生；完成した作品

大学；裏打ち用代用刷毛、新聞紙、バケツ、水

[備考]

報告として、学生の授業の関係で出席出来ない人が多く、団扇に作品を貼る作業は、出席している一部の学生と講師が代行で欠席者の作品を貼る。

[8頁 添付資料1 参照]

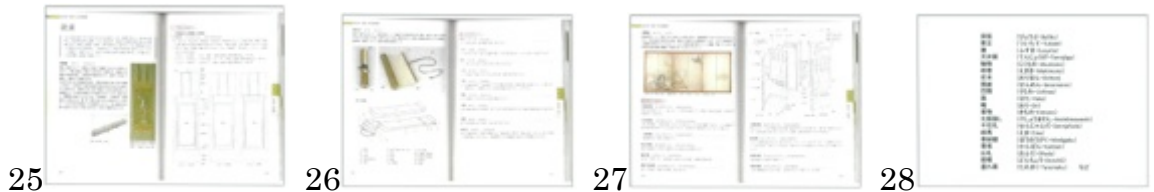
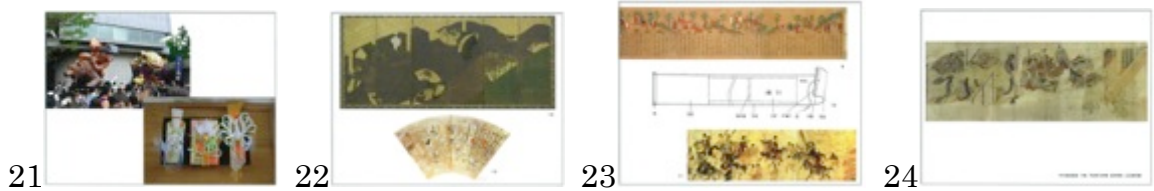
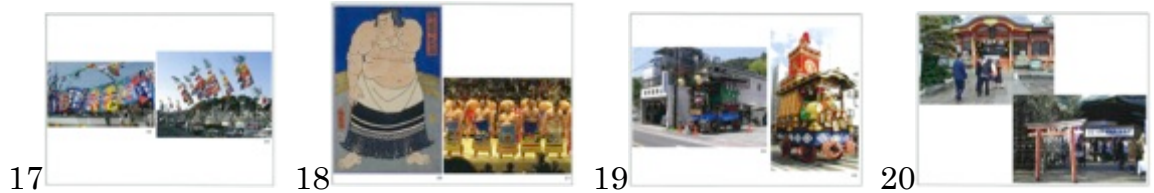
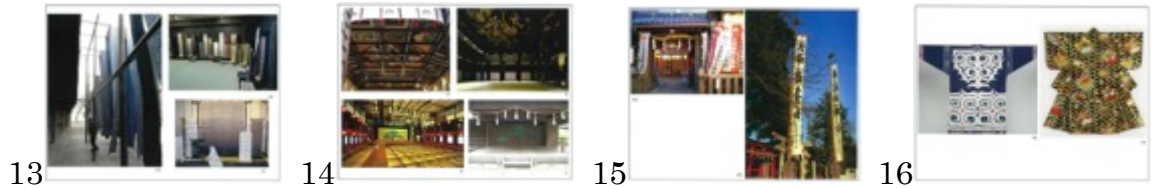
授業実施状況写真

1. イントロダクション「日本画について」の授業 (11/3)

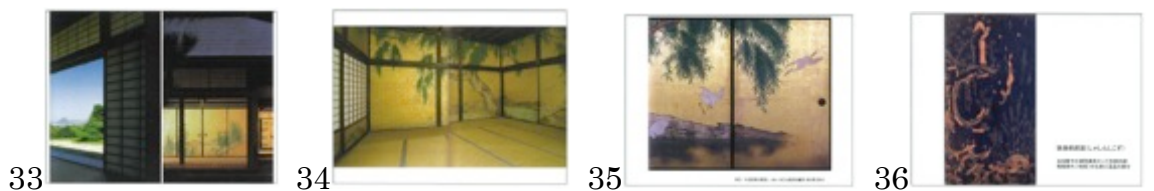
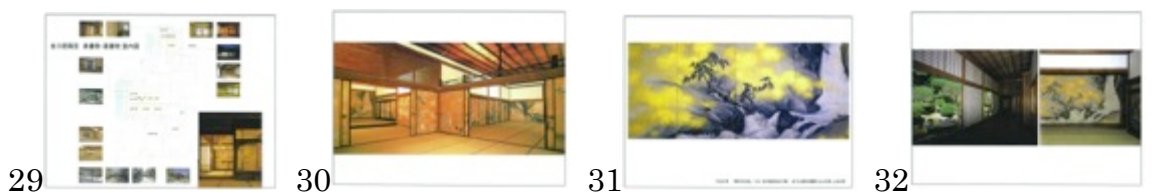


[プロローグとしての P.P.による説明画像]

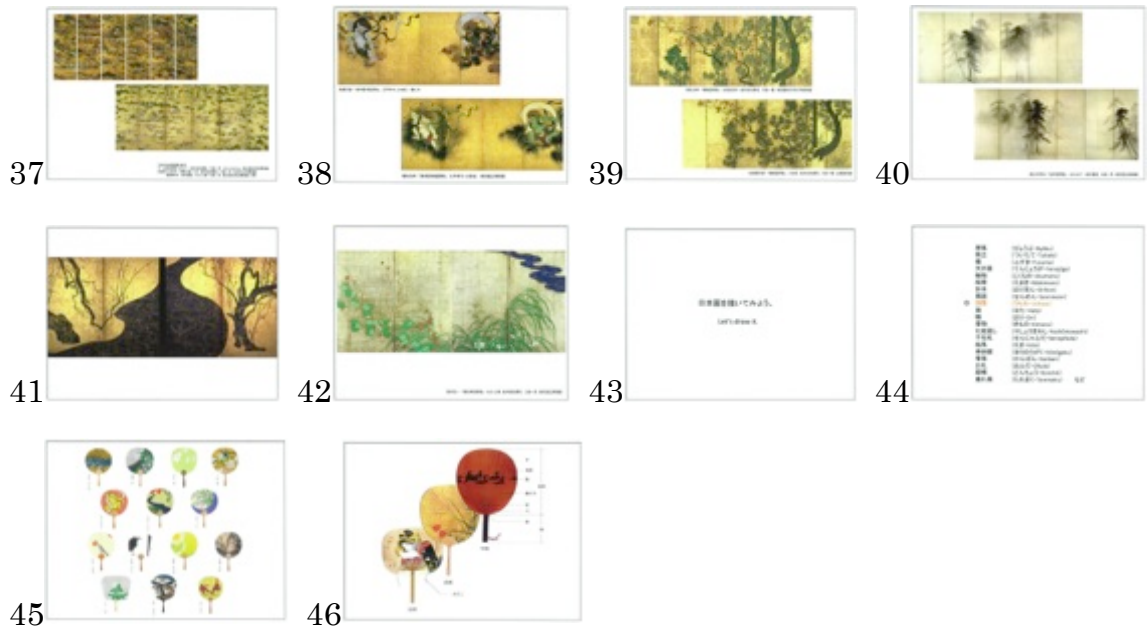




以上、町並みにある日本の画面を有する様々な物と、代表的な画面の構造の解説



以上、金比羅宮に見られる建築と障壁画、周りの自然を取り入れた空間の扱いと、それぞれの障壁画に見られる画面の扱い、異時同図などの解説



以上、型の美術と今回描く団扇の画面についての解説



以上が、日本画の用具や扱い方、および、今授業の進行説明





以上、自作品紹介と展覧会事情

プロローグで使用の P.P.画像は、武蔵野美術大学日本画研究室編「日本画・表現と技法」、重政啓治監修「日本画の用具用材」、「造形ファイル」、東京芸術大学文化財保存学研究室編「図解日本画の伝統と継承」および展示図録、個人運営サイトなどから画像を使用しています。

2. 「日本画の筆を使う」の授業 (11/8)



3. 「日本画の絵具：描く」の授業 (11/10)





4. 「日本画制作 1」の授業 (11/15)



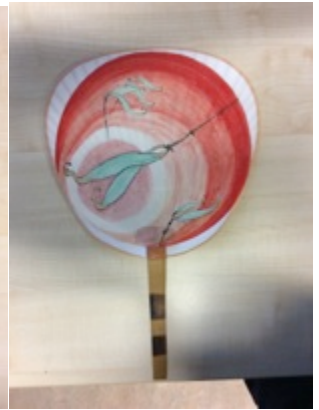


5. 「日本画制作 2」の授業 (11/17)





学生の作品





プログラム (Japanese Art Program 授業計画案) ・ ・ 事前連絡としての内容

1. イントロダクション「日本画について」
目的：古今日本絵画の紹介、および、今講座進行説明。
準備：P.P.作成準備（講師）、スライドなど投影環境の調整、および制作作業机、椅子（以下、机、椅子は毎回）
進行案：P.P.による今プログラムの進行を含めた説明

2. 日本画の線：線を引く
目的：毛筆がもたらす様々な線、および、表現の可能性を知る。
準備：庭にある草花、彩色筆、固形墨、硯（皿を代用）、画仙紙、唐紙、毛氈、ビニールシート、筆洗、タオルまたは雑巾、新聞紙、
など、人数分+水、用具洗い場、水流し場（今以降の講座は、同様）
進行案：導入説明、体験作業制作

3. 日本画の絵具：描く
目的：日本画絵具の紹介とそれを扱う、塗る体験。
準備：前回授業で描いた作品と使用用具に加え、新鳥の子色紙、日本画絵具、平筆を人数分と膠液と容器、膠匙、
+水、用具洗い場、水流し場、電熱器および湯煎用容器
または、お湯とお湯を入れる容器
進行案：導入説明、体験作業制作

4. 日本画制作 1
目的：日本の様々な画面様式の中から、団扇のかたちを利用して描く。
写生、下図、大下図作成、転写、彩色の制作工程の体験。
準備：前回と同様、使用用具に加え団扇用和紙、下図用紙、各人数分各自、鉛筆を持参+水、用具洗い場、水流し場、電熱器および湯煎用容器
または、お湯とお湯を入れる容器
進行案：導入説明、制作

5. 日本画制作 2
目的：4. 日本画制作 1、および、完成への作業。
準備：前回と同様、使用用具各人数分+水、用具洗い場、水流し場
電熱器および湯煎用容器、または、お湯とお湯を入れる容器
進行案：導入説明、制作、講評

※ 以上、下線部はライデン大学側で準備して頂ければ幸いです。

添付資料 3 物品一覧表

日本画制作 物品一覧表 (学生合計数15名+予備5名)

Japanese Art Program

10/30~11/20 2016 重政

購入 物品一覧

物品名	部数	用途	単価	購入代金(税込)	備考	領収書
墨(黄山松煙 小)(15名+予備5)	20挺	制作用	210	4,200		得応軒
彩色筆 7号(15名+予備5)	20本	制作用	2,160	43,200		得応軒
皿(陶器制9cm径、15名+予備5)	40枚	制作用	120	4,800		得応軒
皿(陶器制11cmくらい、15名+予備5)	20枚	制作用	145	2,900		得応軒
三千本膠(飛鳥10本入り)	5束	制作用	650	3,250		得応軒
新岩松葉緑青(白)1両目	10袋	制作用	845	8,450		得応軒
赤口本朱 1両目	10袋	制作用	875	8,750		得応軒
上汗黄土 1両目	10袋	制作用	195	1,950		得応軒
水干胡粉 寿印 150g	1箱	制作用	1,245	1,245		得応軒
生ミヨウバン 50g	1袋	制作用	40	40		得応軒
色紙(画仙ドーサ引き、15名+予備5)	20枚	制作用	150	3,000		得応軒
団扇用和紙(新麻紙2号ドーサ引き)	2枚	制作用	5,615	11,230		得応軒
白団扇(15名+予備5)	20本	裏打ち用		9,850		松根屋
デンプン糊	1本	裏打ち用	115	115		イトヨーカドー
書道半紙	2個	裏打ち用	200	400		イトヨーカドー
送料(講師先配送費)		その他	1,000			得応軒
値引き -7,785					得応軒	
					96,595 ⇒ JAPA負担	

その他 物品一覧

物品名	部数	用途	備考
団扇(見本)	2部	参考用	提供(重政)
花胡粉(練習用600g)	1袋	制作用	提供(重政)
裏打ち用撫刷毛	1本	団扇張り用	重政持参
裏打ち用水刷毛	1本	団扇張り用	重政持参
糊用容器	2個	団扇張り用	重政持参
PC接続コード(Mac用)	1個	説明用 備品	重政持参

ライデン大学側での用意 物品一覧

物品名	部数	用途	備考
草花、落ち葉	15本	モチーフ	
筆洗10程度	20個		大学備品
バケツ	2個	清水用、汚水用(共用)	大学備品
雑巾またはキッチンペーパー	40枚	色調整・清掃	大学備品
新聞紙	多量	運筆練習・作品保存	大学備品
制作用机		作業台	大学設備
椅子		作業台補助備品	大学設備
水・お湯+お湯沸かし用ポット		絵具溶き用	大学備品
洗い場		清掃時・汚水処理場	大学備品
プロジェクター		説明用	大学設備



[日時] 11月6日 15時～16時

[場所] ライデン・シーボルトハウス展示室

[テーマ] 「日本画制作を見る」

[内容] 日本画絵具と和紙、および、制作する手順を見ながらの解説

先ず始めに、日本画制作に用いられる岩絵具、水干絵具、新岩絵具や和紙、膠について、また自己の作品の紹介も含めパワーポイントを用いて解説する。その後、日本画の制作の手順に添いながら、モチーフ・チューリップをテーマに、骨描き、下地、彩色、完成への進行手順を踏まえながら描き、その解説を行う。

[使用時間] 約40分（導入、制作）＋質問時間

[通訳] Ewijk A. van

[レジメ作成] 重政啓治（添付資料4、14頁参照）

[レジメ英訳作成] Ewijk A. van（添付資料4、14頁参照）

[聴講者数] ネット予約者約30名（実質参加者約25名）

[講師の事前準備]

解説のためのパワーポイント、制作手順の色紙4枚、日本画用具一式

[施設事前準備]

水10、お湯10、汚れた水を捨てるバケツ大1個、プロジェクター

<進行のレジメ>

- ・ (導入・・・日本画の紹介と授業内容の説明・予定 20 分)
- ・ (あいさつ・スミッツ先生含む)

講師

制作前の説明として、これから日本画を描く様子を見てもらいますが、その前に日本画の特徴である絵具と和紙の話をして致します。「日本画とは？」という説明は長くなりますので、この講座で用いる絵具、紙のことだけにします。

通訳

Before showing you how Nihon-ga is created, I will explain about the pigments and paper that are being used. Because a full introduction of the history and scope of possibilities in Nihon-ga would become a very long story, today I will only explain about the pigments, paint and paper.

講師

日本画は、現在様々な支持体に描かれています。それは、和紙、絹（きぬ）、板、麻などありますが、やはり主流としては和紙、和紙といっても雲肌麻紙（くもはだまし）という楮（こうぞ）と麻（あさ）を原料にした混合紙（こんごうし）の物に描かれることが多く見られます。（「和紙」2、「紙漉きの工程」3,4 の画像を見ながら）



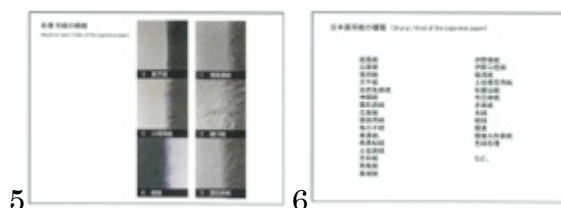
これが和紙の種類の写真と紙を作っている様子写真です。これを見て頂くと分かるように、和紙とは木の皮の繊維を利用して作る紙です。

通訳

In contemporary Nihon-ga, artists paint on many different types of surfaces. For example, Japanese paper, silk, wood, and hemp etc. but the surface most often used is Japanese paper. As to Japanese paper (washi), many types exist, but the most popular is a type of paper in which fibres of hemp and mulberry (Moerbei) tree have been mixed. (Kumohadamashi > cloud skin hemp paper) These are different types of Japanese paper and the way in which paper is made. As you can see here, the paper is made from tree bark. [2.steam 3.taking bark 4.bleach 5.heated 6.taking dust off 7.8.pulp 9.compression 10.drying 11.screenage /classification]

講師

ちなみに私は、ここ最近紙に描くことが多く、作品毎に変えています。それは、和紙が持つ繊維（せんい）の特徴（とくちょう）を生かす描き方を用いているからです。（「各種 和紙の繊維」5の画像を見ながら）

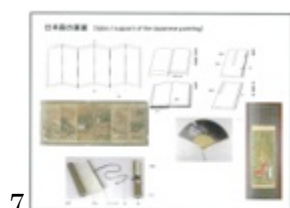


画像にあるように、木の種類で繊維の長さや太さでこのように違います。また、紙の種類も豊富です。（「日本画用紙の種類」6の画像を見ながら）

通訳

Recently, I often use different kinds of paper for my works. I want to want to make use of, and make visible the characteristics of the fibres. [pic] As you can see, depending on the kind of tree used, the length and thickness of the fibres differ. [pic] With these fibres many different types of paper are created > mix.

以上が支持体でしたが、日本には、様々な画面があります。（「日本画の画面」7の画像を見ながら）



画像に写っている物は、ほんの一部です。

通訳

So these are the kinds of paper surfaces that might be used, but another element is the frame. Many traditional types of framer exist. [pics] These are just some examples from the many possibilities.

講師

ちょうど、ここに私の作品を持参しましたので、これを用いて説明させていただきます。

通訳

Let me show you throught some examples of my own work.

（参考作品1「屏風・びょうぶの絵」を出す。）



講師

これは屏風形式のもので、本体は木製のパネルですが、表面は高知の土佐麻紙（とさまし）、扇形（おおぎがた）の部分は福井の神郷紙（じんごし）、絵に関係ない裏は木クズ

が入った楮紙（こうぞし）を用いています。これらは原料が違い、絵具を塗った時には様々な表情を見せるのが特徴と言えます。

通訳

This work is similar to a folding screen (byobu). The frame is made of wooden panels, but the background is made of a paper called tosa-mashi from Kochi (on Shikoku), and the fan shape is made from jingo-shi from Fukui (north of Kyoto). The backside of the panels is made from a paper called kozo-shi, in which has been mixed with wood chips / (sawdust). The different characteristics of the paper help bring out different expressions when paint is used.

講師

少し導入の説明から脱線しますが、この屏風は2枚のパネルを和紙でつなげてあります。これは紙蝶番（かみちょうばん）といって、日本で編み出された物です。よく見ると、どのような工夫がされているのか、不思議な構造で、マジックの様なものになっています。

通訳

We move a little bit away from the main story, but I'd like to show you how these panels are connected with paper too. This type of connection is invented in Japan (commonly used in folding screens) and called kami-choban. The construction is quite fascinating, almost like magic.

（参考作品2「折本・おりほん」を出す。）



講師

その他、この折り本は短い和紙をつなぎ、本体は楮紙（こうぞし）、表紙は工芸和紙（こうげいわし）を貼り合わせ（「貼り」→「張り」を本来使う）鉄線描（てっせんびょう）で描かれています。この言葉は、一定の太さで、鉄線（てっせん）のようなイメージで描かれるので、この呼び名が付けられています。表紙には、砂子（すなご）や切金（きりがね）という箔を用い、作られています。この様な使い方も日本画の特徴です。

通訳

This is called an ori-hon, or folding book. It is put together out of short pieces of paper. The cover is made of kozo-shi (wood chip paper), over which kogei-washi (handicraft patterned? paper) has been pasted. These drawings are called tessens-byo. This literally means 'iron wise drawing and points to the fact that the lines are even in thickness. On the cover, different types of gold leaf (foll) have been used. This use of gold leafs is also characteristic of nihon-ga.

（参考作品3「色紙・しきし2枚の見本」を出す。）



講師

これはその部分が分り易く見てもらうための色紙に貼られた（「押された」が正確な言い方）物です。

通訳

I decorated these two panels with gold leaf to show how it can be used. ('sand-like' pattern = sunago / scattered lines = kirigane)

講師

（絵具・膠が入っている袋を見せながら・・・）



これからは絵具についてですが、画像を見て下さい。（「日本画絵具と原料」の画像を見ながら）



8

日本画の絵具は、自然にある物が原料です。人間は、古来（こらい）身の周りにある色を利用し使って来ました。それは世界共通で、原料についても同じですし、日本画では現在もそのままの姿を残しています。よって、石や土、植物など色を持つ物を原料として、石は粉砕（ふんさい）、粒子状（りゅうしじょう）にし、植物などは染料（せんりょう）として、それらは画面に膠（にかわ）を接着剤（せっちゃくざい）にして定着（ていちゃく）させます。膠の画像については、後に見せます。

通訳

Now I will explain about pigments. Please look at the photographs. The pigments for Nihon-ga are made of natural materials. Since ancient times, people all over the world have been using the colors that can be found all around them. The same counts for the natural materials themselves, and these are still used in Nihon-ga. Stones, earth, plants etc. carry different colors and by processing these, pigments can be made. Stones are pulverized into grains of different sizes, and plants can be turned into dyes. These are then mixed with (water and) nikawa glue (a type of bone glue), so the pigment will attach to the surface. I will explain to you the process involving nikawa during the demonstration.

講師

(「箔の扱い方」の画像を見ながら)



9

あと、箔(はく)という、薄くした金属も使います。画像にあるのは、使い方も写っています。

通訳

This is how gold leaf is being used.

講師

では、これから制作に入りますが、時間を短縮するために日本画制作で常におきる「待つ心」、濡(ぬ)れた物が乾く「待ち時間」は制作する上では重要な部分なのですが、その心の準備や気持ちの整理、作品の改善を練(ね)る時間は省いて進めたいと思います。

通訳

Next, I will demonstrate some aspects of Nihon-ga painting. However, because there is not much time, I will have to fast-forward some parts of the process. Actually and important part of creating a Nihon-ga painting is 'waiting'. Logically, one has to wait till the ink or paint has dried before moving to the next step, but there is also time involved in preparing yourself mentally and polishing and refining the work.

- ・ 制作・・・色紙(しきし)にチューリップをモチーフにして、日本画絵具を溶(と)く方法、彩色する手順を行いながら進めて行く。(予定 25分)

講師

制作の準備として、膠液(にかわえき)を作る(事前準備された膠液と「膠・膠液を作る」の画像を見ながら)、墨を下(お)ろす(墨をすること)、絵具を溶く、「絵具の溶き方」の画像を見ながら)その他、水や筆、描く紙など整えます。「日本画の用具」の画像を見ながら)



10



11



12

今回、正式な用具は日本から持参出来なかったので代用品を用いていることはご了承下さい。

通訳

I will explain to you now several things that need to be prepared before starting the painting: I will show how nikawa glue, ink and paint are made, and with what

of materials. I could not bring all official tools and materials from Japan. I hope you don't mind if I use replacements.

講師

(再度「膠・膠の作り方」の画像を見ながら)



13

膠液は、最古（さいこ）の接着剤といわれ、それは世界共通で、大きい物は建築、小さな物ではバイオリンなどの板を接着するために使われています。

通訳

It is said that liquid made from nikawa is the oldest form of adhesive. It is made out of animal skins or bones and known all over the world. Animal glue is used in building construction, but also for gluing the parts of wooden musical instruments such as violins.

講師

作り方としては、水 50～100cc に対し、三千本膠（さんぜんぼんにかわ）1 本、を湯煎（ゆせん）で溶解（ようかい）します。水の量に関しては、アバウトで、私は 70cc で、やや濃（こ）い目が好みです。

通訳

One puts fifty to a hundred cc of water and one nikawa stick in a pot. (This is a special nikawa pot.) Ten warm it in a larger pot with hot water. ('Au bain marie'...) The amount of water is an indication. I always take 70cc of water, which makes for a fairly thick glue.

講師

(再度「絵具の溶き方」の画像を見ながら)



14

墨は、硯（すずり）と言う物を用い下し（おろす）ますが、ここでは指を使って下ろします。下ろした物は、絵皿（えざら）に保管します。

通訳

Normally, one would use an ink stone for making ink, but you can also use your fingers. The ink is kept in this small plate called ezara.

講師

(「胡粉を溶く」の画像を見ながら)



15

次に絵具ですが、胡粉（ごふん）といわれる白だけは特徴的な作り方になります。乾（かわ）いたお皿に粉末状（ふんまつじょう）の胡粉を入れ、少量の膠液を加え、団子状（だんごじょう）の物を作ります。団子が出来たら、「百たたき」（ひゃくたたき）と言うお皿に叩き付ける（あたたきつける）作業を行った後、少量の水を注ぎ溶き下ろします。

通訳

Only white pigment, which is called gofun, is made in a different way than other colours. I mix chalk with a small amount of nikawa glue on a dry plate, and kneed it till it becomes a lump / ball (a bit like clay). Then I do so-called hyaku-tataki (demonstrated), which consist of throwing the ball a hundred times in the plate. When this is finished I sprinkle some water on it and flatten it in the plate.

講師

その他の絵具は、乾いたお皿に使う色を入れ、同じように膠液を少量入れます。胡粉の作り方とここでは違い、お皿にねっとりと付着（ふちやく）するくらいがベストな溶き方になります。注意する点は、どうしても膠液を入れすぎてしまうことです。これは慣れ（なれ）が必要ですね。

通訳

The other colors are made by putting some pigment on a dry plate and adding some glue. Different from the white pigment, here it is best to dissolve the pigment to such a degree that it sticks to the plate.

講師

良く練った（ねった）あと、少量の水を入れ溶いて行きます。さらに水を入れ、好みで加えます。ここで不思議な現象が起こります。粒子を持っている絵具は時間とともに沈殿（ちんでん）し、水と絵具とに分かれます。粒子が大きい程、短時間でその現象が起きますが、驚かないで下さい。

通訳

When the substance has the right quality, one adds small amounts of water and mixes till the paint has the intended thickness and colour. Now, a peculiar thing happens. When you put the paint aside, sedimentation will occur, and the bigger the grains of the pigment, the faster this happens. So don't worry something went awfully wrong.

講師

ほぼ絵具溶きが終わったら、描く紙、ここでは色紙（しきし）という厚紙に和紙や画仙紙（がせんし）が貼ってある紙を使います。さあ、緊張（きんちょう）しますが描き始めましょう。

通訳

For the painting, I will use a frame called shikishi, which is a square board on

which washi, Japanese paper or decorated paper has been pasted. Well, I feel a bit nervous, but let's start drawing.

・・・色紙1（無地のもの）に描く

講師

本来、下図（したず）から念紙（ねんし）を使ってトレースしますが、ここでは、その部分は省き（はぶき）、薄い墨（うすいすみ）で直接鉄線描（てっせんびょう）を用い骨描き（こつがき）します。

通訳

Normally, I would make a sketch and copy this on the paper intended for the painting, but now I will draw directly on the board with watery ink. The style of the lines are the so-called 'iron wire lines' discussed earlier, and this drawing is called kotsugai, or 'backbone' / outline drawing.

・・・色紙2（骨描きがされたもの）に描く

講師

骨描きが終わったら、モチーフの部分に墨で濃淡（のうたん）を着け、雰囲気（ふんいき）を作ります。全体のバランスが整ったら、さあ、彩色です。

通訳

[Please imagine that the drawing has dried in two seconds... ^_-] When the outline drawing is finished, I add light and shade, in order to create atmosphere. When I am satisfied, I start using colours.

・・・色紙3（墨の濃淡が着いたもの）に描く

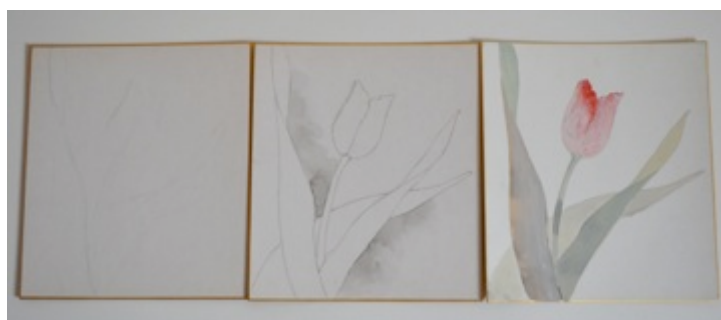
講師

彩色は、現実的な色を用いるのもよし、現実にはあり得ない色で彩色するのも OK です。場合によっては、事前に溶いておいたお皿の絵具を混ぜることをしても構いません。色やそこに現れた水と筆がもたらす偶然の効果も利用します。

通訳

You can use realistic colours, but of course you are also free to use your imagination and use colours you won't find in the real world. You might also mix colours, after you made de paint. I also anticipate on colours, or shapes formed by water or the brush that appear by coincidence.

色紙1、2、3、（作業後の画像）



・まとめの説明（約2分）

完成と言えるものになったら制作終了です。以上、すべての行程を見て頂いたとは言えませんが、終わりにしたいと思います。ご清聴（せいちょう）有難う御座います。以上、通訳のアーフケさん用のレジメともに含む。

公開講座で使用の P.P.画像は、武蔵野美術大学日本画研究室編「日本画・表現と技法」、重政啓治監修「日本画の用具用材」、「造形ファイル」、東京芸術大学文化財保存学研究室編「図解日本画の伝統と継承」からの画像を使用しています。